

# 事務事業マネジメントシート(平成24年度実績と平成25年度計画)

平成25年 7月22日更新

事務事業名		伝統郷土芸能等支援事業					<input type="checkbox"/> マニフェスト 関連		<input type="checkbox"/> 全庁横断 課題関連		<input type="checkbox"/> 集中改革 プラン関連	
総合 計画 体系	政策	4	みんな元気で笑顔あふれるまちづくり					所属部	教育委員会事務局	課長名	上原哲也	
	施策	24	歴史と伝統文化を活かした郷土愛の醸成					所属課	生涯学習課	担当者名	森田由貴恵	
	基本事業	81	伝統文化の継承					所属班	生涯学習班	(内線)	1513	
予算科目		会計 一般	款 10	項 5	目 7	事業連番 10927	法令 根拠	文化財保護法			成果優先度評価結果 ⑧	
終了、開始年度		<input type="checkbox"/> 24年度で終了 <input type="checkbox"/> 24年度から開始			事業期間	<input type="checkbox"/> 単年度のみ <input type="checkbox"/> 単年度繰返 (開始年度 ~ 年度) <input type="checkbox"/> 期間限定複数年度						コスト削減優先度評価結果 ⑥

## ★事務事業の概要 (具体的なやり方、手順、詳細。期間限定複数年度事業は全体像を記述)

【事業の内容】	伝統的郷土芸能や歴史的な祭りの保存・継承活動の支援。(竹迫観音祭、城山祭実行委員会、須屋小屋地蔵祭実行委員会、弘生ワソク保存会、合志町高千穂神楽保存会、須屋神楽保存会、黒石神楽保存会、西合志弁天太鼓保存会、合志市郷土史愛好会)
(開始した背景、きっかけ、今後の状況変化を含む)	各地域にある伝統郷土芸能の保存・振興を図るために開始された。現在、各地域にある保存団体の後継者育成及び確保が困難になっている。地元の若い世代が流出しているのが原因である。新興住宅街には若い世代が多いが、昔からの地域の伝統郷土芸能を理解していくには時間がかかる。
【業務の流れ】	補助金交付に係る申請の受理、審査、交付決定、支払、交付確定
【主な予算費目】	負担金補助および交付金（補助金）
【意見や要望】	補助金の申請者からは、財政緊縮の折補助金の削減は仕方ないが、活動がしにくくなることが懸念されるとの声がある。 関係者(住民、議会、事業対象者、利害関係者等)からどんな意見や要望が寄せられているか？

## 1 現状把握の部 (DO、PLAN)

(1)事務事業の目的と指標	新規・拡充区分
①手段(主な活動) 24年度実績(24年度に行った主な活動) (DO)	25年度計画(次年度に計画している主な活動) (PLAN)
補助金交付による各種保存会等(申請があった8団体)への支援を行った。	補助金交付による各種保存会等(9団体)への支援
各種助成金等の案内を行った。	各種助成金等の案内
市の備品である太鼓の修繕費を新たに設け、張替等の修繕を行った。	
①活動指標(事務事業の活動量を表す指標)	(単位)予算の主な増減の理由
ア)補助金交付団体数	団体 太鼓修繕費の減、
イ)補助金交付額	円 合志八竜太鼓がH24年度から補助申請を取り下げたため補助金の減
②対象(誰、何を対象にしているのか) *人や自然資源等	(単位)②対象指標(対象の大きさを表す指標)
各伝統郷土芸能保存団体	団体 ア)各種伝統郷土芸能保存団体数
イ)	
③意図(この事業によって、対象をどう変えるのか)	(単位)③成果指標(意図の達成度を表す指標)
地域ごとの伝統芸能や歴史的な祭等が保存・継承される	ア)保存・継承できた保存団体の割合 %
イ)	
*③成果指標設定の理由と25年度目標値設定の根拠	総トータルコスト 全体計画 ~ 年度
活動している団体数を把握し、保存・継承のための支援を行う	0

(2)各指標・総事業費の推移			単位	22年度実績(決算)	23年度実績(決算)	24年度目標(当初予算)	24年度実績(決算)	25年度目標(当初予算)	26年度予定	27年度見込	28年度見込
① 活動指標	ア) 団体	10	9	10	8	9	9	9	9	9	9
	イ) 円	751	674	751	602	679	679	679	679	679	679
② 対象指標	ア) 団体	11	11	11	11	11	11	11	11	11	11
	イ)										
③ 成果指標	ア) %	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100
	イ)										
投	事	業	国庫支出金 都道府県支出金 地方債 その他 繰入金 一般財源	千円							
入	費	量	(A) 事業費計	千円	751	674	1,444	1,295	679	679	679
			(A)のうち指定経費	千円	0	0	0	0	0	0	0
			(A)のうち時間外・特勤	千円	0	0	0	0	0	0	0
人	件	費	正規職員従事人数	人	1	1	1	2	1	1	1
			延べ業務時間	時間	200	30	150	50	150	150	150
			(B)人件費計	千円	824	121	605	203	605	605	605
			トータルコスト(A)+(B)	千円	1,575	795	2,049	1,498	1,284	1,284	1,284

事務事業名	伝統郷土芸能等支援事業	所属部	教育委員会事務局	所属課	生涯学習課
-------	-------------	-----	----------	-----	-------

## 2 評価の部 (S E E)

\*原則は24年度の事後評価、ただし複数年度事業は24年度実績を踏まえての途中評価

目標達成度評価	①24年度目標達成度評価  事務事業の当年度実績は当年度目標値を達成したか、未達成の場合その原因は?	<input type="checkbox"/> 達成した  補助金交付団体10団体のうち2団体は未交付 1団体は補助金辞退のため、1団体は活動を行っていないため未申請	<input checked="" type="checkbox"/> 達成しなかった ⇒【原因 ↗ 24年度未交付の2団体には、25年度以降も活動を続けていただくようお願いをした。(1団体は、補助金申請をせず規模を縮小し活動) (1団体は次年度は活動を活発にする)
	②25年度目標達成見込み  事務事業の次年度目標値に対して次年度の見込みはついているのか?	<input checked="" type="checkbox"/> 目標達成見込みあり ⇒【理由 ↗ 24年度未交付の2団体には、25年度以降も活動を続けていただくようお願いをした。(1団体は、補助金申請をせず規模を縮小し活動) (1団体は次年度は活動を活発にする)	<input type="checkbox"/> 目標達成は厳しい ⇒【理由と対策 ↗
有効性評価	③成果の向上余地  次年度以降にこの事務事業の成果を向上させる余地はあるか?成果が頭打ちになってないか?	<input checked="" type="checkbox"/> 向上余地がある ⇒【理由 ↗ 後継者育成のため、各団体と地元子ども会や小中学校との連携を促す。	<input type="checkbox"/> 向上余地がない ⇒【理由 ↗
	④類似事業との統廃合・連携の可能性  目的を達成するには、この事務事業以外他に方法はないか?類似事業との統廃合ができるか?類似事業との連携を図ることにより、成果の向上が期待できるか?	<input type="checkbox"/> 他に手段がある (具体的な手段、事務事業) <input type="checkbox"/> 統廃合・連携ができる ⇒【理由 ↗ <input type="checkbox"/> 統廃合・連携ができない ⇒【理由 ↗ 他に類似事業がないため	<input checked="" type="checkbox"/> 他に手段がない ⇒【理由 ↗
効率性評価	⑤事業費の削減余地  成果を下げずに事業費を削減できないか?(仕様や工法の適正化、住民の協力など)	<input checked="" type="checkbox"/> 削減余地がある ⇒【理由 ↗ 補助金の交付を受けずとも活動の継続が可能がある可能性もあり、逆により多くの補助金を必要としている団体もある。補助金交付団体および金額の精査が必要。	<input type="checkbox"/> 削減余地がない ⇒【理由 ↗
	⑥人件費(延べ業務時間)の削減余地  やり方を工夫して延べ業務時間を削減できないか?成果を下げずに正職員以外の職員や委託でできないか?(アウトソーシングなど)	<input type="checkbox"/> 削減余地がある ⇒【理由 ↗ 必要最小限に抑えているため。	<input checked="" type="checkbox"/> 削減余地がない ⇒【理由 ↗
公平性評価	⑦受益機会・費用負担の適正化余地  事業の内容が一部の受益者に偏っていて不公平ではないか?受益者負担が公平・公正になっていないか?	<input type="checkbox"/> 見直し余地がある ⇒【理由 ↗ 郷土伝統芸能の継承活動は、地域の文化振興にも大きく貢献するため。	<input checked="" type="checkbox"/> 公平・公正である ⇒【理由 ↗
	⑧行政の役割分担の適正化  事業事務のやり方や手段においてこれまでの行政、市が行ってきた範囲を住民や地域・団体に移行できないか?	<input type="checkbox"/> 見直し余地がある ⇒【理由 ↗ 各団体の活動資金の一部を補助しているため。	<input checked="" type="checkbox"/> 役割分担は適正である ⇒【理由 ↗

## 3 評価結果の総括 (S E E) ※事務事業全体の振り返り、成果及び反省点等を記入

伝統文化・芸能の保存・継承は後継者の確保育成が困難であり、年々活動団体が減少しているところである。今年度未交付の2団体は話し合いにより今後も活動を続けていただくようお願いした。また、市の備品である太鼓の修繕をし、その保管と練習場所をより条件の良い場所へ変更するなど伝統芸能活動の支援を行うことができた。

## 4 今後の方向性 (事務事業担当課案) (P L A N)

### (1) 今後の事業の方向性 (改革改善案) ···複数選択可

- 廃止 休止 目的再設定 事業統廃合・連携 事業のやり方改善(有効性改善)
- 事業のやり方改善(効率性改善) 事業のやり方改善(公平性改善)
- 現状維持(従来通りで特に改革改善をしない)

補助金交付団体は活動内容を把握することが出来るが、未交付団体は活動状況の把握が難しい。連携を密にする必要がある。

### (2) 改革・改善による期待成果 (廃止・休止の場合は記入不要)

成 果	コス ト		
	削 減	維 持	増 加
向 上			
維 持			
低 下			

### (3) 改革、改善を実現する上で解決すべき課題(壁)とその解決策